

第2回WSのまとめ

滞留部をつくる構成要素として、「固定のベンチ」「イベント時に合わせて可動椅子等が設置できるエリア」「植栽」が設置されることを想定し、沿道の建物の用途や普段の生活の動線等を考慮しながら意見を出し合いました。

【滞留部やベンチの形状についての意見】

・滞留部：通りの両入口には固定のベンチなどを設け、中央部はフレキシブル、植栽を中心とする

・ベンチ：「横たわれないようにする」「プランターの緑が座面になる」「柵のように腰掛けられる」等のデザインアイデア

→日常時における通り全体の滞留・通行のバランスを考慮、景観性を保つ固定ベンチのデザイン検討が必要

【植栽の管理・運営についての意見】

・店舗や住民みんなで植栽の手入れを行う日を設けたり、場所を決めて自分が育てたい植物を育てるという方法もある

・緑は地植えかプランターかを慎重に検討する必要

→継続的な管理が行いやすい仕組みの検討が必要

【店舗前の滞留スペースについての意見】

・各店舗前には偏りなく均等にベンチを配置する

・飲食店が並ぶエリアでは、一体になった飲食可能スペースを確保する

→日常的な滞留ニーズの想定と各沿道関係者の意向把握が必要

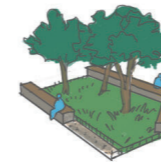
第3回WSでは…

「千葉公園通りのコンセプト・平面案の共有」計画コンセプト、イメージパスを見ながら、各エリアのコンテンツについて意見を出し合いました。

コンセプト

1. 緑によるつながり / 道路空間のあり方

- ・千葉駅と千葉公園を豊かな緑でむすぶ
- ・画一的な断面構成ではなく、緑や滞留空間の配置がエリアによって異なる
- ・適切な緑や舗装材料により、環境負荷の低減や環境性能を高める



2. 人のつながり / エリア別の体験のあり方

- ・沿道建物の用途や周辺環境に応じて、滞留のあり方を変化させる
- ・緑量や植栽の大きさや設えをエリアに応じて変化させ、居心地良い空間を目指す
- ・植栽の維持管理、活用ルール等の仕組みを整える



3. 賑わいのつながり / 利活用空間のあり方

- ・日常時だけでなく、ちこほこ（千葉公園通りホコ天）等のイベント時の使い方を両立させる
- ・車道を区分し一部を利活用空間として整備し、利活用方法も考える
- ・インフラやオリジナルのプランターにより、市民が扱いやすい設えを目指す



WSの流れ

- ・作成された改修素案の道路形状や滞留部の要素を反映した計画図を紹介
- ・「コンセプト / 緑のあり方」「日常編」「非日常編」の3つのテーマから意見共有
- ・3班に分かれ、イメージパスを参考に付箋を使って現状の生活をする上での課題やポテンシャルを共有し、整備後の生活の様子やイベント時の活用を想像しながら意見を出し合う

各エリアの計画 ※現時点での計画です。変更の可能性があります。

① 千葉公園側エリア



千葉公園と相対した緑の拠点空間

公園のように待ち合わせや日常的な憩いの場を目指します。まとまりのある緑量により、雨水を集めたり、車の往來の心理的な緩衝となります。

② スドーボックス前



住宅の多いエリアから千葉公園へ緩やかに繋ぐ

3つの高さの可動プランターは腰掛けやコーヒーテーブル等の利用もできます。このスポットではちこほこ時はステージの利用を想定しています。

③ 住宅の多い中央エリア



日常時は季節の変化を感じる設え

可動プランターは植栽の維持管理の仕組みを検討します。ちこほこ等のイベント時は可動仕器が設置できるスペースも設けています。

④ 千葉駅側エリア



通りのシンボルとなる入口部の拠点空間

花壇を再整備し、維持管理に必要なインフラの導入のほか、通りの名称やイベントの告知を示す看板の設置を検討します。



テーマ 1
コンセプト・具体的な方向性
緑のあり方についての意見

- ・樹種：千葉公園の緑との一体性 / 常緑 / 冬枯れしない / 落ち葉処理の負担が少ない
- ・管理の仕組み：千葉公園のボランティアと連携 / レンタルプランター / プランターごとにやりたい人が管理 / 楽しくて負担の少ない方法の検討
- ・防災の視点：発災時の水道電気の補完 / かまどベンチ / 雨水の利活用 / 植栽帯に土のうの保管
- ・子供の関わり：安心安全で水やり等ができる仕組み

→負担が少なく楽しく維持管理ができる千葉公園通りならではの仕組みの検討
防災の視点から、日常と非日常の活用を検討

テーマ 2
滞留ゾーンのあり方
日常編の意見

- ・保管場所確保：テーブル椅子 / 掃除道具 / 水やりホースなど
- ・プランターの機能：貯水機能つき
- ・駐車スペース：エリアごとにスペースを集約
- ・情報発信：地域情報 / デジタルサイネージの活用 / 千葉公園の情報（開花情報等）
- ・照明：プランターの両サイドに設置 / 通りの東側に多く設置（現況として暗いため）
- ・ベンチ：昼食時に利用できそう / 寝そべり防止のため座面を最低限に（千葉駅側）

→日常的なプランターの維持管理を行うため、植栽管理の仕組みや道具の保管場所だけでなく、プランターとインフラの設備の検討が必要

テーマ 3
滞留ゾーンのあり方
非日常編（イベント時）の意見

- ・電源：現在も利用頻度の高い3箇所（上記計画図参照）に設置 / ポータブル電源も併用して活用
- ・ゴミ箱：イベント時のみに設置 / 仮設での設置
- ・プランターベンチの設え：パラソルを据え付けできる / 荷物を置けるぐらいの幅 / イベント機材が収納可能
- ・可動仕器（テーブルや椅子など）：現在はイベント毎に持参 / 保管しやすい設えとする

→イベントの継続的な開催が可能となるように、イベント実施のハードルを下げるための仕組みやインフラ設備の検討が必要

昨年度に引き続き、今年度も有意義なワークショップとなりました。ご参加いただきありがとうございました！

これまでウォークアブル推進を目的に「ちこほこ（千葉公園通りホコ天）」等で様々なことにチャレンジしてきた千葉公園通りだからこそできる空間を目指します。来年度からは、ご参加いただいた皆さまの意見を踏まえ、2025年度の改修工事に向けた設計を進めていきます。

これまでの取組みは
左記のQRコードから！

●お問合せ先
千葉市役所 都市局 都市部 都心整備課
TEL：043-245-5327 FAX：043-245-5627
MAIL：toshinseibi.URU@city.chiba.lg.jp

※令和6年4月1日以降はまちづくり課に変わります。
TEL：043-245-5327 FAX：043-245-5627
MAIL：machizukuri.URU@city.chiba.lg.jp